Tagging for Sustainability

あらゆるものを情報化して、社会のうごきを最適化する。



株主の皆さまへのご報告

第72期中間報告書

サトーグループをより詳しく ご理解いただくために——





代表取締役上席執行役員 海外事業担当兼経営企画担当

阿部陽一

新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、困難な状況におかれている方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、感染拡大防止や社会生活の維持のため、それぞれの立場で日々懸命に努力し、社会に貢献されているすべての皆さまに深く感謝申し上げます。

当中間期の連結累計期間の業績は、売上高60,261百万円(前年同期比120.8%)、営業利益2,779百万円(同189.0%)、経常利益2,695百万円(同218.8%)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,848百万円(同56.9%)となりました。

海外事業においては、売上・営業利益ともに、中間期として過去 最高となり、営業利益率は7.4%と前年同期から3.2ポイント改善 しました。

ベースビジネスは、米州・欧州においては特に注力市場のリテール市場で既存顧客の需要が拡大し、サプライ製品の売上が大きく伸長しました。アジア・オセアニアにおいては、製造業、中でも自動車や電機・電子部品業界が好調に推移し、各地域において増収増益となりました。当第2四半期の3カ月間においては、部材供給不足等による当社プリンタの供給制約や、サプライ製品の原材料価格上昇の影響を受け、前年同期比で増収も営業利益は微増にとどまりました。

プライマリーラベルを専業とする各社においては、引き続き食品や飲料、衛生用品といった生活インフラを支える業界向けのニーズが堅調に推移し増収増益となりましたが、当第2四半期の3カ月間では原材料価格の上昇等が影響し、前年同期比で増収減益となりました。

日本事業においては、概ねすべての市場で想定通りの回復傾向が継続し、増収増益となりました。メカトロ製品、サプライ製品売上のうち、サプライ製品が先行して回復傾向にあり、コロナ禍以前の2020年3月期上期の水準に戻りました。メカトロ製品は前年同期を上回ったものの、回復には想定より時間を要しています。

市場別ではリテール、ロジスティクス、公共市場の売上が2020年3月期上期の水準またはそれ以上に回復した一方で、最も売上構成の高いマニュファクチャリング市場では、電子部品等好調業界はあるものの、投資意欲の回復は業界によってまだら模様であり、2020年3月期の売上水準に戻るにはまだ時間を要する見込みです。

また、戦略的に好調業界への拡販を強化したことで製品ミックスの一時的変化によるメカトロ製品の粗利率の低下および、中期経営計画に沿った成長投資に伴う営業経費増、メカトロ製品の輸送コスト上昇等により、営業利益率は前年同期比で▲0.1 ポイントとなりました。

2022年3月期通期の連結業績予想につきましては、当中間期の業績および、直近の事業環境等を踏まえ、以下のとおり修正いたします。

通期の連結業績予想

売上高	122,000百万円 (前回予	想 117,000百万円)
営業利益	6,400百万円 (同	6,400百万円)
経常利益	6,200百万円 (同	6,200百万円)
親会社株主に帰属する当期純利益	4,000百万円 (同	4,000百万円)

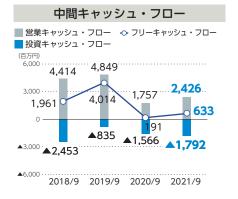
2021年度中間期の業績













年間配当金の推移

上期に引き続き下期においても日本、海外ともに需要は旺盛なことから売上高を上方修正いたします。一方、世界的な半導体をはじめとする部材や、原紙などの原材料価格高騰および、サプライチェーン逼迫による輸送費上昇等を見込むことから、損益は期初予想を据え置くことといたします。

2022年3月期の年間配当金は、当中間期の業績、通期の業績予想、当社の財務状況および、基本方針である「四者還元」などを総合的に勘案し、中間配当金を35円とすることといたしました。また期末配当金予想を35円とし、中間配当金を合わせた年間配当金は、1株当たり70円で、前期と同額を維持する予定です。

私たちは、社是「あくなき創造」や企業理念を根幹に据え、挑戦し続けることで、持続的に成長を遂げ、企業価値の向上に尽力していく所存です。

サトーグループは、大きな環境変化や社会変化にあっても、あらゆる現場で課題に向き合い、タギングによって価値を拡大させていくことができる強みを持つユニークな企業です。これからも次世代を切り拓き、お客さまをはじめとするステークホルダーのご期待に応えるべく、グループー丸となってまい進してまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも未永くご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

~食品輸送は 5 に温度管理の時代へ~



RFIDラベルを活用した温度管理システムが 植物工場のイチゴで本格運用開始

株式会社サトー(以下サトー)、沖縄セルラー電話株式会社と株式会社KDDI総合研究所は、沖縄セルラー電話株式会社が栽培・販売する沖縄のブランド苺「美ら島ベリー」の輸送の全過程において、RFID温度ロガータグ(ラベル)を用いて精緻に温度を管理するシステムを開発し、2021年6月から本格的に運用を開始しました。

また、このシステムは、一般社団法人日本自動認識システム協会が主催する2021年度「第23回自動認識システム大賞*1」において、「大賞」を受賞しました。

美ら島ベリーは、沖縄セルラー電話株式会社がICTを活用した完全密閉型植物工場で栽培し、出荷する沖縄の特産品。植物工場内での栽培によって農薬を不使用にするほか、安定した収穫量や良好な出荷状態の確保に努めてきた商品です。今回の運用では、生産者の出荷から小売店への納品までの全過程で継続的に温度記録を取得することによって、さらなる品質確保と商品が劣化した際の原因究明を可能にします。

近年、食品輸送においては、鮮度の維持と品質劣化の防止のために、最適な温度下での輸送や保管を求めるニーズが高まっています。これまで、出荷時や物流業者の特定の中継

点で商品の温度を計測する輸送管理は行われてきましたが、 出荷の時点から継続的な温度履歴を取得し、管理を行うこと は費用面などから実運用上、困難でした。

今回のシステムでは、サトーが開発したRFID温度ロガータグ [LogBiz - Thermo] (以下、LogBiz) を出荷箱に添付し、出荷から納品まで5分毎に、2週間分の温度履歴をLogBizに記録します。温度データは、生産者や物流業者の入荷時および出荷時にスマートフォンの操作でクラウド上の温度推移管理システムにアップロードされます。閾値を超えた場合には、システムのオペレータに警告が表示されます。このシステムによって、美ら島ベリーの輸送過程まで含めた品質保証が可能になり、ブランド維持や消費者への安心感の提供が可能になります。

開発においては、サトーがLogBizの提供およびクラウド上の温度履歴管理システムの開発、スマートフォン用のアプリケーションの開発を担当。株式会社KDDI総合研究所は、輸送中の温度変化による品質劣化に関する解析を担当しました。今後は、温度変化による品質劣化を警告するシステム開発を予定しています。

※1 自動認識システム大賞について

この賞は一般社団法人日本自動認識システム協会が、自動認識技術やシステムの発展と普及、啓発を目的として、 先進的かつその効果が極めて顕著な自動認識関連の技術やシステムを表彰するものです。



RFID温度ロガータグ [LogBiz - Thermo] について

RFIDタグとバッテリー駆動の温度ロガーを1枚のRFIDラベルに加工し、食品や化学製品 医療品等の輸送・保管中の温度変化による品質劣化を防止する商品です。



"美ら島ベリー"の温度管理システム概要

- 1 生産者が美ら島ベリーを出荷する際に、LogBizを出荷箱に貼付。スマートフォンを操作し、温度記録を開始(この時点から、自動的に5分毎に温度を記録する)。スマートフォンのNFC通信機能でクラウド上の温度推移管理システムに温度データを送信。
- 2 輸送業者が商品を入荷する際に スマートフォンを操作。スマート フォンのNFC通信機能でクラウド 上の温度推移管理システムに、 その時点のスマートフォンの位置 情報とそれまでの温度履歴データ を送信。
- 3 輸送業者が商品を出荷時にスマートフォンを操作。スマートフォン のNFC通信機能でクラウド上の 温度推移管理システムに、その時 点のスマートフォンの位置情報と それまでの温度履歴データを送信。
- 4 閾値を設定し、温度推移をスマートフォンおよびクラウドシステムのダッシュボードで監視。適切なルート、時間、温度で輸送されているか、輸送品質を管理。

スマートフォンでタグをタッチ すると、位置情報とロギングして いる温度情報をクラウドにアップ ロード。各過程での温度を確認する ことができます。

また、温度異常の有無や位置情報などを、場所を問わず、現場でも事務所でも同じ情報を見ることができます。

製造メーカー



配送センター

ログ履歴(位置・温度情報)

RAE: 1725E. BRAE: 1825E

90 81 0

輸送

食品輸送の大半は一定の温度管理が不可欠ですが、医療・薬品・化学製品、半導体など、食品以外でも温度管理が必要な物は多岐にわたり、これらを取り扱っている輸出企業数だけで約3.5万社にのぼります。

工業プラントや製造部門、サーバールームなど、厳しい環境での温度管理や製品管理を必要とする場合においても、このシステムを活用することで、多種多様なお客さまのニーズにお応えすることが可能です。今後とも新たな付加価値の提供を目指してまいります。

輸送

小売

3

会社情報

商 号 サトーホールディングス株式会社

SATO HOLDINGS CORPORATION

本社所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目1番1号

創業 1940年(昭和15年) 設立 1951年(昭和26年) 資本金 8,468百万円 決算期 3月31日

連結従業員数 5,583名

連結売上高 603億円 (2022年3月期第2四半期)

〈ご参考〉1,091億円(2021年3月期)

役員

取締役

代表取締役 社長兼CEO 小瀧 龍太郎

代表取締役 上席執行役員 阿部 陽一 海外事業担当兼 経営企画担当

取締役 上席執行役員 国内事業担当兼 小沼 宏行 株式会社サトー 代表取締役社長

取締役経営会議議長 鳴海 達夫

社外取締役 指名諮問委員会委員長 田中 優子

社外取締役 伊藤 良二

社外取締役 取締役会議長 山田 秀雄

社外取締役 報酬諮問委員会委員長 藤重 貞慶

社外取締役 野々垣 好子

執行役員

上席執行役員 CWO	笹原	美徳
執行役員	宇敷	謙二
執行役員	マリア	オルセス
執行役員	大西	裕紀
執行役員 CAO	Ш⊞	倫靖
執行役員	弓場	吾朗
執行役員 CFO兼CCO	松本	房晃

監査役

监直仅		
常勤監査役	横井	信宏
常勤監査役	永倉	淳一
社外監査役	八尾	紀子
社外監査役	久保	直生

サイトのご案内

当社ホームページではIR情報や決算情報を はじめとした情報開示を行っております。



企業情報や投資家情報、最新の統合報告書など、 詳しくはホームページをご参照ください。

URL

https://www.sato.co.jp/about/

株式の状況

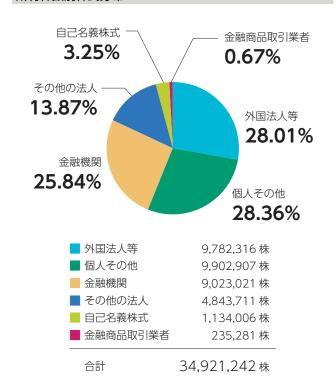
発行可能株式総数 80,000,000 株 発行済株式の総数 34,921,242 株 株主総数 7,704 名

大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
公益財団法人佐藤陽国際奨学財団	37,862	11.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	36,462	10.79
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	28,375	8.40
サトー社員持株会	14,010	4.15
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	12,453	3.69
THE BANK OF NEW YORK 133612	9,739	2.88
GOVERNMENT OF NORWAY	9,592	2.84
佐藤 静江	8,974	2.66
横井 美惠子	8,943	2.65
株式会社アリーナ	8,544	2.53

(注) 当社は、自己株式を保有しておりますが、上記大株主から控除しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には、役員報酬BIP信託口が保有する当社株式を含んでおりません。 大株主について、公益財団法人佐藤陽国際奨学財団の所有株式については、従来どおり合算(名寄せ)して表示しておりますが、その他については、株主名簿の記載どおりに表示しております。

所有株数別株式分布



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
配当金受領	期末配当 毎年3月31日	
株主確定日	(中間配当を行う場合は、毎年9月30日)	
株主名簿管理人 特別□座の□座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部東京都府中市日鋼町 1-1電話 0120-232-711(通話料無料)	
同郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	

上場取引所 東京証券取引所市場第一部(証券コード:6287)

(ご注意)

- 1. 住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。お取引されている証券会社等にお問い合わせください。
- 2. 【特別□座】に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別□座の□座 管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。なお、三菱UFJ 信託銀行全国各支店でもお取り次ぎ致します。
- 3. 未受領の配当金の支払請求につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。



日本酒の実運用では国内初

より安心な商品提供に向け RFIDタグの流通経路管理システムを導入

このシステムは、日本酒の商品一本ごとの流通経路を把握し、並行品の流通拡大を抑止することで、より安心な商品の提供を目指すものです。日本酒分野で酒販店まで含めたRFID技術の流通経路管理システムを実運用するのは国内初となります。2次元コードとRFIDタグを組み合わせて、酒造メーカーから買い入れる卸売業者または特約酒販店、卸売業者から直接買い入れる酒販店までの出荷商品、出荷履歴を管理、自動認識技術による情報一括読み取りなどにより、製造現場や出荷管理業務の負担も軽減します。このシステムは、一般社団法人日本自動認識システム協会が主催する2021年度「第23回自動認識システム大賞*1」において、高桑美術印刷株式会社、および黒龍酒造株式会社と合同で「優秀賞」を受賞しました。

システムの概要

商品製造の段階から王冠の天面に2次元コードを印字して個品での管理情報を付加し、RFIDタグを活用して卸売業者や酒販店に届くまでの流通経路を管理します。並行品と思われる商品があった場合には、その商品の流通経路記録を確認した上で、詳細状況を把握します。



酒造メーカーの課題

- 正規・非正規流通品の市場混在
- 非正規流通品の品質管理
- 市場全体への影響を危惧

非正規品流通のリスク

- 日本酒本来の美味しさを理解してもらえない
- リピート需要の喪失
- 商品価値の低下
- 供給と価格が不安定

流通経路管理システムで 課題を解決!

酒造メーカーは国内だけでも約1,400社あり、並行品の流通拡大に加え、在庫管理の煩雑さや消費者ニーズの多様化など、同様の悩みを抱えております。ご紹介した流通経路管理システムだけにとどまらず、P.3~P.4のトピックスでご紹介したRFID温度ロガータグによる定温物流管理や在庫管理システムなど、私たちの強みであるRFIDタグを活用したソリューションで、お客さまの現場の課題解決に貢献してまいります。